

第1回 ボールパーク整備検討会議 議事要旨

日時：令和6年8月27日（火）14時30分～16時00分

場所：青森県庁西棟8階大会議室

1. 開会

事務局： それでは定刻となりましたので第1回ボールパーク整備検討会議を始めさせていただきます。私は本
（ 県 ） 日司会を務めさせていただきます、県交通・地域社会部地域交通・連携課の小玉と申します。よろしくおねがいいたします。

2. 知事挨拶

事務局： はじめに開会にあたりまして宮下知事よりご挨拶を申し上げます。
（ 県 ）

宮下知事： みなさんこんにちは。本日は第一回の検討会議ということで、皆様にお集まりいただき改めて心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

今年には記憶に新しいのが青森山田高校の大活躍でありまして、県民を代表して高校野球の甲子園に臨んでベスト4という快挙を成し遂げていただきました。一試合一試合をみるごとに非常に勇気と感動を私自身にも届けてくれたし、おそらく多くの県民の皆様にもそういった感動を届けてくれたものと私自身は確信しています。野球というスポーツが国民的なスポーツであって、そして誰もが楽しめるスポーツであることは言うまでもありません。県と市で県営野球場が今もう築56年を迎えていてよいよ更新の時期にあたるということもあって改めて野球場を整備するという感覚ではなくて、新たにボールパークといいますが、県民の皆様にも理解され愛されるような施設を作りたいという思いで、今回検討会議を設置させていただきましたので、皆様におかれましてはどうぞよろしくお願いいたします。

私が施設に期待することは、もちろん野球の環境をしっかりと提供できるということはもちろんですが、それに加えて新施設になりますので、賑わいですとかあるいは交流ですとか、ほかのスポーツもできるようになると思います。あるいはイベント、防災といった様々なことが盛り込まれるようなそういう施設にしていきたいという思いもございまして、なにより施設から夢が広がっていくような、希望が膨らむようなそういう施設に仕上げていきたいという風にも思っております。今回はそういう意味ではみなさまそれぞれの経験や知見からのびやかに議論していただくということ、そして自由にご発言いただきたいということ、さらには未来志向でぜひ検討を進めていただきたいということをお願い申し上げます。非常に利用価値が高くさらには多様な機能を有し、そういった意味では県民にも理解をされ、さらには夢が広がる、長きにわたって県民に愛される施設づくりに皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会議のスタートのご挨拶としては以上とさせていただきます。皆様改めましてどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局： ありがとうございます。
（ 県 ）

3. 委員紹介

事務局：では、本会議の委員の皆様をご紹介します。お名前をお呼びしますので、その場でご挨拶をお願いします。

(県) 青森県軟式野球連盟理事長の小野 元樹委員です。

小野委員：小野です。よろしくお願いします。

事務局：あおりアスリートネットワーク代表の齋藤 春香委員です。

(県)

齋藤委員：齋藤です。微力ですが力になれたらと思います。よろしくおねがいいたします。

事務局：青森県中学校体育連盟野球専門部部長の袴田 康夫委員です。

(県)

袴田委員：袴田です。よろしくお願いします。

事務局：青森県スポーツ推進審議会会長の花田 慎委員です。

(県)

花田委員：花田と申します。ボールパーク整備が県民のするスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツの充実につながっていけばと思います。よろしくお願いします。

事務局：北東北大学野球連盟事務局長の三浦 忠吉委員です。

(県)

三浦委員：三浦です。よろしくお願いします。

事務局：青森県高等学校野球連盟副会長の三上 保委員です。

(県)

三上委員：三上です。微力ですが力になれたらと思います。よろしくお願いします。

事務局：株式会社 ORANDO PLUS 代表取締役の石山 紗希委員です。

(県)

石山委員：石山と申します。弘前市でカフェやゲストハウスなどの機能を持った施設を 5 年前から運営しています。また、移住者や関係人口の循環を生む取組も行っています。そういったところを活かしていきたいと思っています。出身が青森市で小学校のころは野球部、中高ソフトボールをしており、野球場は非常になじみ深い場所です。よろしくお願いします。

事務局：株式会社 and more 代表取締役の久慈 美穂委員です。

(県)

久慈委員：久慈と申します。私は県南でまちづくりに関わる仕事をしています。場所を活用する子どもたち、親の視点から取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

事務局：株式会社クロックアップ代表取締役の中村 公一委員です。

(県)

中村委員：こんにちは。私は青森コーヒーフェスティバルや音楽フェスティバル、弘前市でまちづくり関係の仕事をしています。よろしくお願いします。

事務局：青森大学総合経営学部経営学科教授の沼田 郷委員です。

(県)

沼田委員：沼田です。よろしくお願いします。

事務局：株式会社日本経済研究所公共デザイン本部上席研究主幹兼インフラ部長の小原 爽子委員で

(県) す。

小原委員：小原と申します。スポーツ庁のスタジアム・アリーナ改革推進事業に携わり 8 年目になります。全国のスタジアムアリーナでいいものができればと思っています。よろしくお願いします。

事務局：青森朝日放送株式会社報道制作局制作部ディレクターの田中 珠紀委員です。

(県)

田中委員：田中です。会社では情報番組を主にやっていますが、夏は高校野球の放送を楽しんでやっています。長く残る建物に携わるということで大変緊張しますし、楽しみでもあります。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございました。紹介は以上となります。

(県) なお、知事は公務のため退席させていただきます。(知事退席)

4. 委員長選出

事務局：では本会議の委員長の選任に移ります。ボールパーク整備検討会議設置要綱の規定に基づき委員
(県) 長は委員の互選により選任されることとなっております。

自薦、他薦ございましたらお願いします。

花田委員：(挙手)

事務局：花田委員、お願いいたします。

(県)

花田委員：私から沼田委員を推薦いたします。

青森大学で教授かつ学科長として豊富な経験と幅広い見識をお持ちであることに加え、硬式野球部部長、北東北大学野球連盟理事長ということで適任ではないかということで、沼田委員に委員長をお願いしたいと思います。

事務局：ただいま、花田委員から沼田委員をお願いしたいのご発言がございましたが、委員の皆様いかがで
(県) しょうか。

委員一同：(「異議なし」の声あり。)

事務局：委員の皆様のご賛同をいただきましたので、委員長は沼田委員に決定させていただきます。

(県) 沼田委員長は、この後の議事進行のため、委員長席にご移動願います。

委員長から一言お願いいたします。

沼田委員長：先ほど知事も申しておりましたが、ボールパークという想いを受け止めて、ぜひ忌憚のない意見、提案をさせていただきますと思います。簡単ではございますが、よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございました。

(県) それでは、議事に入りたいと思います。会議の進行は、沼田委員長にお願いします。

5. 議事

(1) 事業全体の流れ及び検討会議の進め方等について

沼田委員長 : それでは、議事に入らせていただきます。

まず、議事（１）について事務局から説明願います。

事務局 : （資料 1～3 について説明）

沼田委員長 : では、今説明いただきました内容について質問、意見ありましたらいただければと思います。

袴田委員 : 賑やかで人が集まるボールパークを目指すということだが、現在のところ、整備する場所、候補地はあるのでしょうか。

事務局 : 候補地は資料 5 で説明する予定となっております。今後の検討会議の場を通じて検討していく予定でございます。

沼田委員長 : 他になければ、議事（２）に移りたいと思います。

（２） 野球場を核に年間を通じた賑わいや交流を創出するボールパークのイメージについて

会長 : 次に議事（２）に移りたいと思います。

議事（２）について事務局から説明をお願いします。

事務局 : （資料 4、5 について説明）

沼田委員長 : では、今説明いただきました内容について質問、ご意見ありましたらいただければと思います。

袴田委員 : ありがとうございます。多分事務局の想いもあるかと思いますが、資料 4、1 ページ目の「年間を通じた」というところが重い部分かと思います。また、雪に関してこの問題も出てくると思います。雪の克服をするために年間を通じてまでも利用できるような施設ということで、F ビレッジはわかりますが、（アメリカの）Busch や CHS について、気象の影響などわかっている範囲で教えていただければと思います。

事務局 : 特に豪雪地、ということは把握していません。ただ、Busch Stadium や CHS Field については青森と比べると温暖な地域で、施設の運営に関して降雪による影響は少ないと判断しています。

袴田委員 : 後程ドームにするなどの話題もあるかと思いますが、ありがとうございます。

花田委員 : ボールパークのイメージということですが、私が仕事を通してサッカー場、陸上競技場を様々見た中で、公共施設ですので、稼働率を上げることが大事なことだと思います。昔はその競技の大会をやるだけでしたけれども、今は多機能ということで、様々な機能を持たせて、さらには周辺施設を整備して賑わいを出すということが重要なのかなと考えています。F ビレッジを昨年見てきましたが、ゲームが開催されていない日であっても見学や食事、遊び場があり、驚くほど賑わいと交流が促進される施設だと思いました。あそこはプロ球団であり、あるいは都市基盤も異なることから青森とは条件が違いますのでそのまま同じものはできませんが、野球選手以外が交流などできることは大事だと考えています。スポーツ推進審議会の立場からすると、一番体を動かさない世代は働く世代、子育て世代で、そういった人たちが行って、楽しみ、交流するきっかけとなる施設になればさきほど知事が言われた「希望が膨らむ」施設になるのではないかと思います。

三上委員 : 短命県と呼ばれる中で、冬の運動不足も課題かと思います。そう考えるとドームも一つの方向性ではないかと思います。ドームではなくても冬場市民、県民の方が気軽に集まって運動できる施設であれば賑わい・交流に繋がっていくのではないかと考えます。冬場ということがキーワードだと考えます。

沼田委員長 : きたぎんボールパークは防災機能も備えていまして、個人的にはスタジアムと防災がなかなか結び付かなかったのですが、大変面白いと感じました。

小野委員 : 青森県ということで、私も野球で地方をまわっているんですけども、ボールパークについて様々な意見

を各県の理事長等に話した段階で、商業施設やまちなかにある球場については賑やかになっているということです。ただ昔の考え方としては、野球場は私の場合は野球をする、という感覚でしたが、それだけでは人が集まらない、野球の大会だけになってしまうと。土日の稼働率は大半の球場が100%の稼働率、青森県に関しても相当なパーセンテージとなっています。ただ、平日に使用しているかという数%かと思う。夕方は高校生が練習し、一般の方がナイター練習をするなど、それが現在の利用状況かと思えます。ボールパークを作るうえでどのような戦略にしていけるか、青森県民が何回も行きたいと思える施設。そして観光、特にねぶたなどは今の野球場を利用する方は遠くなかなか見る機会がない、ということで、観光と県民のリピーターを作るという二つのプランを考えながら施設を作っていければと思います。

小原委員：みなさまのご意見を伺う中で勉強させていただいていたところです。その中で、まず検討会議のポイントというページで、野球場を核とした賑わいや交流を創出するボールパークとありますがそれがどういうボールパークなのかと考えています。まず球場自体がより使われるように検討していくことが良いのかなと思っています。資料にもありますが年間の71日が使われていて、土日は埋まっているかと思えます。そうすると平日が課題になるかと思うのですが、野球場の難しい点が野球場の形状が四角ではないため、他の球技で活用する施設ではないかと思えます。一方で外野の芝生を考えるといろいろなことができるかと考えています。例えばヨガやダンス、体操での活用は可能かと思えます。またマーカ、コーンを活用すれば簡単なサッカーは可能かと思えますので、平日利用を進めていくことが重要かと思っています。例えば野球場ではないですが、ヴィッセル神戸のノエビアスタジアムでは、ラジオ体操を実施している。シニアの方々が特にラジオ体操をされていて、芝生の上で気持ちいいと好評だということです。京都サンガの京都サンガスタジアムは、スタジアムに保育園が併設されています。サッカーがない日も利用があって、子どもたちが芝生の上で遊ぶような形になっています。

個人的には学童併設もよいかと思う。学童施設であればその中で子どもたちが野球やサッカーなどいろいろなスポーツができるかと思えます。昨今共働きの親が多いため、子どもに習い事をさせたくてもできないような方たちは、学童が併設になっていて様々なスポーツプログラムができる、ということであれば、送り迎えもなく子どもたちも楽しく素晴らしい施設を使ってスポーツができるということになります。野球の振興、またその他のスポーツの振興に繋がるかと思えます。

また、プロ野球を呼べるスペックにするかは一考の余地があるかと思えます。きたぎんも2万人入るスペックですが、プロ野球は年に1回、2回。その年に1、2回のためにそのスペックにするかは検討の余地があり、その分日常利用の施設整備に費用を使ったらどうかというところを考えたほうが良いかと思えます。

ホームチームを置く、という考え方をすると、プロ野球というわけにはいかないかもしれませんが、企業チームのホームスタジアム的な使い方とするのであれば、そういった方々に協力してもらってその中で野球教室などを行うようなことも考えられます。都市対抗野球で活躍している選手も子どもたちのあこがれですし、そういった方の野球教室は盛り上がるかと思えます。例えば野球場ではないですが、総合体育館でFリーグのチームが施設内でクラスを持っていて、子どもたちに教える、教えると選手にも収入が入り、チームの宣伝にもなるという好循環を起こしている施設もあります。同じようなことは野球場でもできるかと思えます。振興の仕方は様々ありますので、可能性は十分あるかと思う。

キーワードをたくさん入れていただいています。スタジアムは様々なキーワードの役割を同時に果たすことができるかと思えます。

委員長：まさにどのような機能をあわせるか、我々がどのような想いをのせるかということだと思います。

三浦委員：三浦と申します。私自身も現在青森大学硬式野球部の監督を兼任させていただいていて、県営野球場も何度も利用しています。監督を務める前に社会人野球の実業団で12年間プレーしていた中で、小原さんの話にもありましたが、使う選手側がまずは使いやすいようにするということも重要視していきたいと思っています。

弘前にははるか夢があり、プロ野球を誘致されているが、屋内練習場がないため、雨天時には青森市内で大学の室内を借りるなどして練習しているなど課題があるのかなと思います。

野球部員が減っており、少年野球も減っているという状況です。高校野球も合同チームが増えており、野球に携わる子どもたちが減っている状況です。プロを呼べるようにするかという意見もありましたが、第1線のプロの選手のプレーを青森市内でみられるというのは、野球人口を増やしていくうえでは重要かと思います。

サンドームが少年野球、サッカー、中学校の野球など100団体以上が一つの会場を言い方は悪いですけど奪い合うような形になってしまっています。運動する学生、子どもたちが利用可能な屋内練習場は非常に大切かと思います。野球場でも1塁側、3塁側ブルペンが室内に入っているものもあるし、きたぎんにも球場のすぐ横にかなり広い屋内練習場があり使いやすさを感じます。人が集まるということに関しては、平日の夕方でも少年野球の子どもたちが屋内練習場で練習するということがありますし、たくさんの方が運動に携わることができるとよいと考えます。

今後も現場の立場からいろいろ話をさせていただければと思っています。

中村委員：勉強不足な部分で大変申し訳ないですが、議論の前提条件の一定の共通認識の部分が皆さんバラバラなうえで話されていると思うので、まずは敷地候補や、本県における野球の競技に関するデータなどご説明いただいた方がよいかと思います。

入込人数が5万人とありますが、そもそも多いのか少ないのか、少ないとしたらどのくらいの人数を目標にするのか、目標の根拠は何かといったところを教えてくださいたいと思います。

事務局 場所については、まず青森市内を念頭に考えています。現時点ではどこ、という想定はないため、2回目以降検討していく予定となっています。

先に資料6の説明をした方がよろしいでしょうか。

沼田委員長：資料6の説明をお願いします。

(3) 野球場に関する問題点及び課題について

会長：次に議事(3)に移りたいと思います。

議事(3)について事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料6について説明)

沼田委員長：では、今説明いただきました内容について質問、ご意見ありましたらいただければと思います。

中村委員：ありがとうございます。野球人口が他県と比較すると多いのか少ないのか、また10年後にはどこまで減っているか、現在の利用人数5万人が多いか少ないか、そしてどこまで増やしたいかといったところは何かありますか。

事務局：現時点ではそこまで決めきれなかったため、次回までに資料作成させていただきたいと思います。

石山委員：稼働率の部分が気になっていて、休日が多いことはそうなのか、と思っていたところです。おそらく他のボールパークも同様に平日の利用を増やすための議論がされているかと思うので、平日の利用者数を増やすために他の施設でどのような取り組みがされているか教えてくださいたいと思います。

同じ部分の意見になりますが、平日の利用というと、日常の使い方になるので、普段の生活の動線にどう紐づいていくか、どこに取り込むかを考えるのが必要だと思います。学童となると確実に使う人がいる機能だと利用者もイコールで増えるということだと思うので、そういった部分を考えていければ良いかと思いました。

事務局：日常利用というところで、稼働率をあげるに関しては最近できたスタジアムでは様々な取組がされています。京都サンガスタジアムもそうですが、公園と一体的に整備を行い取組をしている事例においても日常利用について運営企業も含めて様々な取組がされているところです。児童遊戯施設を整備し、平日の利用を促す取組もございます。

いわきのいわきFCパークについてはクラブハウスとしての機能と、小規模な商業施設やスポーツジムの利用、英会話教室など日常利用を市民ができるような施設とスポーツ施設を組み合わせる事例はあります。

岩手県のオガールはスポーツ施設とは呼べないかもしれませんが、行政施設とアリーナ、様々な機能を組み合わせているという点では、多機能、多角的な利用を呼び込む、という点では参考になるかと思ひ、ご紹介させていただきました。

小原委員：一般的な野球場の平日利用は複合施設になる場合はなかなか利用されていないのが実情かと思ひます。先ほども話した通り、野球場は四角ではないこと、またマウンドなどまっ平ではないことがあり、野球以外の使い方をどうしていくかという点はどこの野球場でも課題になっているかと思ひます。

そういった中では、外野グラウンドの使い方や、部活利用が考えられます。部活動が地方では特に野球部が1校に1チーム作れず合同チームとなったときに、部活動の拠点になるような使い方もあって良いかと思ひます。AIを活用したスポーツ施設が増えており、その中で部活動の高度化も注目されていて、部活顧問の負担軽減の取組としてもあるかと思ひます。

平日利用に関してはこれからということですので。

事務局：動線の話がありましたが、機能と合わせて第2回以降検討していくことになろうかと思ひます。

補足になりますが、野球場自体の使い方の事例について、説明させていただきます。

ヤンキースタジアムではサッカーやアイスホッケーの機能として使われており、その他にもコンサート利用されているような球場もあります。

今回の一つのポイントとして、施設としてこういったものを整備するかも大きな点ではありますが、どうやって使いまわしていくか、という視点では、どのように管理していくかがポイントになってくるかと思ひます。

国内の野球場がなかなか使いまわしができないという点においては、公共施設としての管理で日常利用ができないという点もあるかと思ひます。管理、運営をどのように考え、使っていただいて収益を得るところも合わせて考えていくかがポイントになるかと思ひます。

中村委員：球場がどのようなソーシャルインパクトがあるかという指標の設定を並行して検討する必要があるかと思ひます。

久慈委員：検討委員会の進め方のページについて、提示する資料の例のところ、ヒアリング、アンケート、#あおばなの意見についてはすでにあるものなのか、これからかということをお聞きしたいです。

また、パブコメの募集がよくありますが、声の大きい方は応募してくるかと思うんですが、なかなか声が出ない方々からどのように意見を聞くかが重要になるかと思ひます。また実際に活用している小中高生の子どもですとか、また兄弟児をつれていったときに小学生中学生の子どもの試合に小さい子を連れて行った際に持て余してしまうといった意見を反映できないかと思ひます。

事務局：ヒアリング等についてはこれから実施するという事で予定しています。#あおばなは高校生から意見を集めるという形で予定をしています。

委員長：齋藤委員からお話しいただくことは可能でしょうか。

齋藤委員：お伺いできず、オンラインでの参加となり失礼いたしました。

夢と規模の溢れる球場になるのではないかと、ということで話を伺っていました。弘前市の球場について、実際携わり、運営等に携わった中での経験からお話させていただきたいと思います。

まずはワクワクする球場、というところが重要になるかと思っています。プロ野球をはじめ様々な試合ができること、また他のスポーツもできるようにすることが必要かと思っています。

はるか夢球場については、天井がないため、運営において天候を不安視していたところもあります。人工芝であるため、数時間で使えるようになるため、その点はよかったです。可能であればドーム型にして、天候に左右されず安心して予定通りに使用できることが重要かと感じていました。

事務局：全天候型、という部分については費用もかかる部分であるため、検討会を通じて話していきたいと思っております。

委員長：田中委員からご発言をお願いします。

田中委員：行ってみたい球場にする必要がある、という部分で、HP上に掲載された際に、カッコいい一枚が撮れるような野球場になるといいと思っています。

例えば八甲田山が見える球場などになると写真映えしていいなと思います。

ただ雪が降ると半年使えないことや、屋根が掛かるとその風景が消えてしまうといった様々なことを天秤にかけて検討していくことだと思います。

青森らしい景色が球場から見えて、「青森らしい」と思った中でプレーしたり観戦したりできるといいなと思います。

屋根あり、屋根なし、開閉式などの維持管理費が比較できるものがあると検討しやすいかと思いました。

映像を出す立場からすると、ビューティーな角度があるといいなと思います。

はるか夢球場でやっているように雪を活かすことはできないものかとも考えています。年間の利用価値をどのようにするかは課題であるが、「青森らしさ」を出していけるといいなと思います。

委員長：青森らしさが感じられる球場になるといいなと思います。はるか夢は3塁側から岩木山が見えるようデザインされているかと思っています。そういったところもスタジアムに入れられたらと思います。

久慈委員：新総合運動公園が整備されたかと思いますが、様々な施設が入っており、県南からも人が来ていたりすると聞きます。

まちから離れていて交通の課題もあるのか気になる場所でもあります。

事務局：新総合運動公園について平日の利用ということで、特にはないですが、ふわふわ遊具を整備したりしています。そうした点で効果はあったかと思いますが、具体的な利用者の数字がないため、どれだけ効果があったかは分かりません。

開業直後は市営バスが運行されていたのですが、現在は運行されておらず、（市民バスの運行本数も少ないため、実質的には）車で来ていただく以外の方法がない現状です。

なお、イベントの際には臨時便を運航していただいたことはありました。

6. 閉会

事務局：ありがとうございました。

最後にお配りしておりますヒアリングシートについてご説明いたします。

(ヒアリングシートについて説明)

それではこれをもちまして、第1回ボールパーク整備検討会議を終了します。本日は、ありがとうございました。

以上